

報道関係各位
プレスリリース

「中之島香雪美術館」が2018年3月21日に開館します

- 大阪屈指のビジネス街の中心に、新しい美術館が誕生
- 1年をかけて開館記念展シリーズを開催
重要文化財19点、重要美術品22点をはじめとするコレクションを一堂公開
- 知られざる「村山コレクション」の全容を初めて紹介

■大阪屈指のビジネス街の中心に、新しい美術館が誕生

公益財団法人香雪美術館（神戸市、村山美知子理事長）は2018年3月21日、開館45周年を記念し、当館コレクションを軸に優れた美術品を展示する新たな施設として「中之島香雪美術館」を開館します。

新しい美術館が位置するのは、大阪屈指のビジネスセンターである中之島エリアにそびえる超高層ビル「中之島フェスティバルタワー・ウエスト」。近代的なビル^{せい ひつ}の空間の中にありながら、静謐で格調ある空気に包まれる「市中の山居」として、日本の美を心ゆくまで堪能できる美術館となります。

中之島香雪美術館では、最高の鑑賞体験をお約束するため、高品質の設備を実現しました。

ロビー・エントランスを彩るのは、20メートルにわたるダイナミックな木目の「切子格子」や温かな土壁。現代建築と和の世界観が巧みに融合した空間が、来館者を誘います。



中之島香雪美術館 エントランス

報道関係の
お問い合わせ

「中之島香雪美術館」広報事務局（ウインダム内）

TEL 03-6661-2510 FAX 03-3664-3833 Email kosetsu@windam.co.jp

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-28-9-4F「中之島香雪美術館」広報事務局

落ち着きと格調を備えた展示室には、現在、美術品展示で考え得る最高スペックの技術、機材を投入しています。52.5メートルの開口部を持つ展示ケースは、国内最高水準の超高透過ガラスに低反射加工を施し、ガラスがあることに気づかないほど。高演色性能のLED照明で個別調光も可能で、作品の美しさを存分に引き出します。ストレスなく作品に向き合える、異次元の鑑賞環境です。



中之島香雪美術館 展示室

常設展示のみどころは、何といても茶室「中之島玄庵」です。重要文化財・旧村山家住宅に建つ茶室「玄庵」を、茶庭である「露地」まで含めて正確に再現（写し）。繁忙なビジネス街でいつとき心を洗う「市中の山居」であるだけでなく、古田織部好みとして名高い藪内流家元の茶室「燕庵」の様子を忠実に伝える写しとして、すでに茶道関係者の高い関心を集めています。



中之島玄庵

大阪・中之島は、グローバルに活躍する多数の企業が拠点を置くビジネスセンターであり、美術館や大規模ホールが集積する関西随一の文化ゾーンでもあります。フェスティバルタワー・ウエスト内にはヒルトンホテルの最高級ブランド「コンラッド大阪」や、国内外選りすぐりのショップ、レストランが展開し、インバウンドも引き付ける新たな観光・交流スポットとして注目を集めています。このように活気あふれる中之島で、日本や東アジアの美術のすばらしさを世界に向けて発信していく美術館として、末永く貢献していきたいと考えています。

■1年をかけて開館記念展シリーズを開催

重要文化財19点、重要美術品22点をはじめとするコレクションを一挙公開

香雪美術館の「香雪」は、所蔵品の多くを収集した村山龍平（1850～1933）の号です。朝日新聞社の創業者として知られる村山は、日本美術の保護にも大きな役割を果たしました。岡倉天心の依頼により、美術雑誌『國華』の経営を引き受けたほか、優れた美術品の海外流出に心を痛め、自らも大規模な収集に乗り出したのです。

村山の没後、残された貴重なコレクションの維持保存と研究を目的に、1972年、財団法人香雪美術館が設立され、翌73年、神戸・御影の村山家住宅の敷地の一角に展示施設が開館しました。

国指定重要文化財19点をはじめとする所蔵品は、仏教美術、書跡、近世絵画から、茶道具、武具に至るまで、幅広くジャンルを網羅しているのが特徴です。時代や作家を代表する名品も多く、美術関係者から高い評価を受けていますが、展示施設の制約上、これまで十分に紹介することができませんでした。

新しい中之島香雪美術館では、オープンから1年をかけて開館記念展シリーズを開催します。映画などにも取り上げられた作品から、近年注目の作家の逸品まで、コレクションの精髓を紹介する記念展にご期待ください。

■知られざる「村山コレクション」の全容を初めて紹介

中之島香雪美術館の開館に先立ち、香雪美術館では、当館の所蔵のほかに村山家の所蔵となる村山龍平コレクションの本格的な調査を進め、寄託を受けました。開館記念展が、村山コレクションを初めて総合的に披露する場となります。

「菩薩半跏思惟像」（白鳳～奈良時代もしくは新羅～統一新羅時代）、「地藏菩薩立像」（鎌倉時代）などの仏教美術から、明治時代に雑誌『國華』に発表されて以来、初めての公開となる「伊勢物語色紙」（室町時代）、稀少な作例である葛飾北斎筆「肉筆画帖」（江戸時代）などの中近世絵画まで、コレクションの広大さ、そして村山の収集にかける熱意を改めて感じさせる逸品ぞろいです。

調査は引き続き進行中で、開館記念展シリーズの間、新たな発見などの成果を随時紹介します。知られざるコレクションとの出会いをお楽しみください。

常設展示のご紹介

■茶室「中之島玄庵」^{げん なん}

重要文化財・旧村山家住宅（神戸市）に建つ茶室「玄庵」を、原寸大で正確に再現しました。茅葺き屋根、土壁、柱など、本物と同じ材料を用いています。「玄庵」はもともと、藪内流家元の「燕庵」^{やぶのうち えん なん}の忠実な「写し」です。「中之島玄庵」もまた、古田織部好みの様式を伝える貴重な茶室建築です。

展示にあたっては、茶室正面の土壁部分を取り外せるように造作しており、本来、外部からはうかがいにくい茶室内部の空間を、見やすく工夫しています。間取りや窓の明かり、釜や花入などのお茶道具も見て頂けます。

茶室を囲む壁面上部には、神戸・御影の四季の風景をCG加工した映像を映し出し、自然の移ろいの中で変化する茶室の様子を楽しんでいただけます。



■村山龍平記念室

中之島香雪美術館の所蔵品の多くは、朝日新聞創業者の村山龍平のコレクションです。記念室では、新聞づくりに邁進し、同時に日本の文化や美術を支援した村山の生涯をたどります。旧村山家住宅の敷地面積は5,000坪に及び、洋館と和館、茶室が渡り廊下で結ばれています。その住宅の90分の1のジオラマを展示するほか、洋館の2階居間部分を再現したコーナーもあります。また、岡倉天心らが創刊し、村山が財政支援した現存最古の美術雑誌『國華』も紹介します。なお、「香雪」「玄庵」は、どちらも村山龍平の雅号です。





中之島香雪美術館 施設概要

- 名 称 中之島香雪美術館
- 所 在 地 〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4 中之島フェスティバルタワー・ウエスト 4階
- 面 積 美術館エリア(全体)／962㎡(291坪)
エントランスホール、ミュージアムショップ／71㎡(21坪)
展示室／470㎡(142坪)
村山龍平記念室／78㎡(23坪)
茶室展示室／134㎡(40坪)
- 開 館 時 間 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 休 館 日 月曜日(祝日の場合は翌火曜日)※展示替えなどによる臨時休館あり
- 入 館 料 一般 900(700)円／高大生 500(350)円／小中生 200(100)円
※()内は前売り・20名以上の団体料金
- 交通アクセス 地下鉄四つ橋線「肥後橋」駅、京阪中之島線「渡辺橋」駅と直結
JR「大阪」駅桜橋口より徒歩11分
地下鉄御堂筋線「淀屋橋」駅より徒歩6分
JR東西線「北新地」駅より徒歩8分

中之島 香雪美術館

Nakanoshima Kosetsu Museum of Art

〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4 中之島フェスティバルタワー・ウエスト 4階
TEL 06-6210-3633 FAX 06-6210-4190
<http://www.kosetsu-museum.or.jp/nakanoshima/>